

講義名	海外語学研修(ニュージーランド)			授業形態	
担当教員	濱田 真由美	開講期・曜日・時限	後期 水曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

海外語学研修(ニュージーランド)は、2月上旬から約3週間、ハミルトンにあるワイトカ大学で第二言語としての英語(EFL)学習者に特化した英語授業に参加します。また、ホームステイや各種のアクティビティによる異文化体験により、参加者の視野を広めることも目的としています。本語学研修は、現地研修に参加するための国内での「事前研修」と「現地研修」とで構成されています。それら一連の活動に適切に参加し、さらに課題をこなして初めて単位が与えられることを認識した上での参加が必要となります。

到達目標

- 上に挙げた全ての活動を通して、次のことを学ぶことを目標とします。
1. 日常会話に必要な英語が聞き取れるようになる
 2. 日常会話に必要な英語が話せるようになる
 3. 英語話者と実際に会話ができるようになる
 4. 異文化圏の人々の考え方や価値観を理解し、尊重することができるようになる
 5. 異文化の人々の考え方や価値観を理解し、尊重することができるようになる
 5. 団体生活において自分を律することができるようになる

提出課題

1. 事前研修での課題
2. 現地での課題
3. その他の課題

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

提出・教員による評価後は、受講生間で共有やコメントを求めることもあります。

評価の基準

1. 事前研修への出席、および活動内容、提出物の評価(50%)
2. 現地研修への出席、および活動内容、提出物の評価(現地教員の評価を含む)(50%)

履修にあたっての注意・助言他

海外語学研修(ニュージーランド)は、日本を離れて異文化を体験することで、今まで体験したことのない様々なことが学べる素晴らしい機会を与えてくれるものといえます。学内での授業では物足りないと考え、さらに英語力を磨きたい人の積極的な参加を期待します。ただし、現場での行動だけでなく、事前研修での課題をこなすことも必要です。また、行事への参加・貢献については、集団の中での活動となり、自分中心の行動は許されない場面も多くなります。とりわけ現地研修中は、特に参加者の安全を確保することを優先して考え、集団行動において適切な行動をとることが求められます。事前研修、また現地研修中に、それらの資質が欠如していると判断されたものに関しては、以後の研修への同行を中止する場合もあります。その場合は単位が認定されません。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

授業内で適宜プリントを配付します。

授業計画

- 1) 事前研修
 - ・パスポートの取得を含めた出発準備
 - ・現地研修概要説明
 - ・ホームステイのための心得
 - ・自己紹介および日本文化紹介のための資料作成
 - ・ニュージーランド滞在に必要な実践英語学習
- 2) 現地研修
 - ・ワイトカ大学での英語研修とホームステイ
 - ・現地での文化研修

*内容は、状況に応じて変更される可能性があります。適宜調整しながら行います。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア: PBL(課題解決型学習)	イ: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ: ディスカッション、ディベート	エ: グループワーク
オ: プレゼンテーション	カ: 実習、フィールドワーク
キ: その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

- 予習:
毎回指示されたトピックに対する発表用資料作成(2時間程度)
- 復習:
講義中に出てきた表現について習熟を図る(2時間程度)

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

海外語学研修を通して、「夢や志を持ち、明るく元気にどこへ出ても物怖じすることがなく、誰とでもしっかりと言葉をお互いに交わすことができ、逆境でもたくましく生き抜くことができる」ことを専攻文化で学び、特に経済学部生に求められる「人間、社会、自然に関するこれまでの学問的成果の基礎」、商学部生に求められる「各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識」、人間社会学部生に求められる「コミュニケーション能力」の修得を目指す。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

- 備考
 ・【履修条件】
 ・提出書類を期日までに提出すること。
 ・期間を過ぎての提出や未提出書類がある場合は、研修をキャンセルしてもらう場合がある。
 ・学内の健康診断を受けた学生。